

# 小笠原における英語と日本語の言語接触

2009/12/15 ダニエル・ロング (首都大学東京)

表1 小笠原諸島の時代区分

- 第1期 1830~1872 「在来島民時代」: 無人島だった父島に欧米人と太平洋諸島の開拓者が定住する
- 第2期 1873~1945 「日本化進行時代」: 日本の領土となり、日本人入植者が多数派になる
- 第3期 1946~1968 「米軍統治時代」: 米軍の統治下で欧米系島民のみの在住が許可される
- 第4期 1968~現在 「日本返還後時代」: 返還後旧島民が戻り新島民が増え、欧米系再び少数派になる

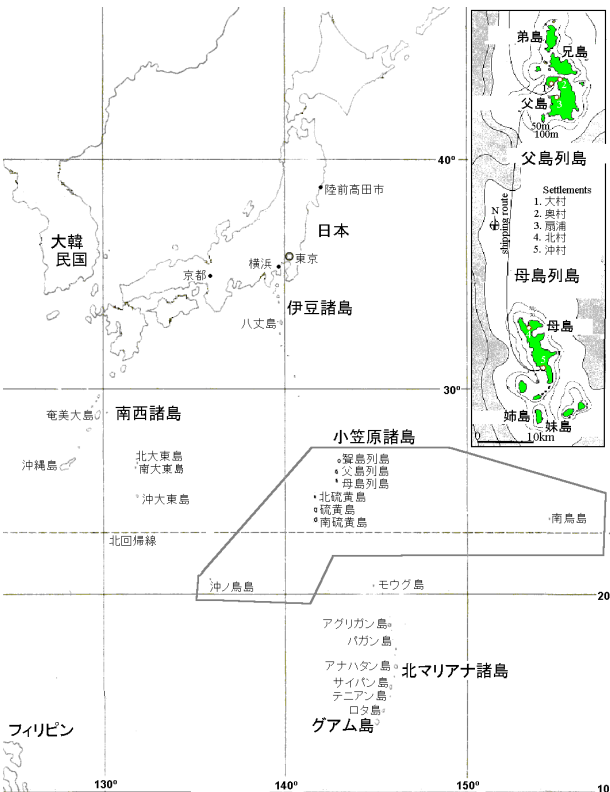


図1 小笠原の位置

19世紀・20世紀の小笠原で形成された様々な新しい言語体系  
およびそれに関与した入植者の言語

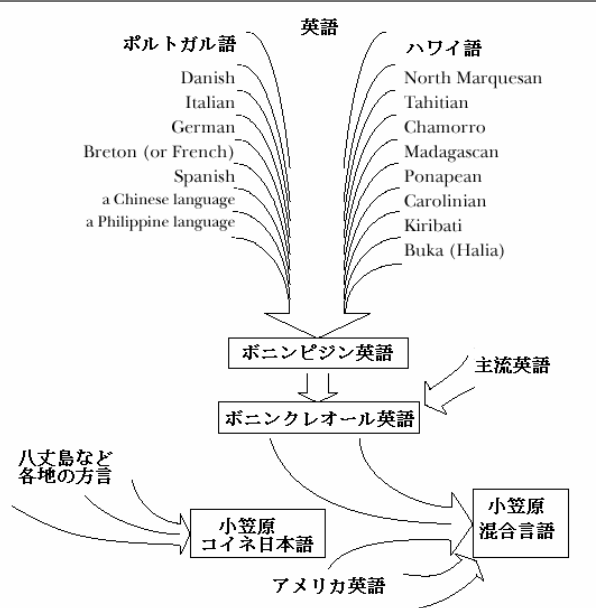


図2 言語接触と言語体系の形成

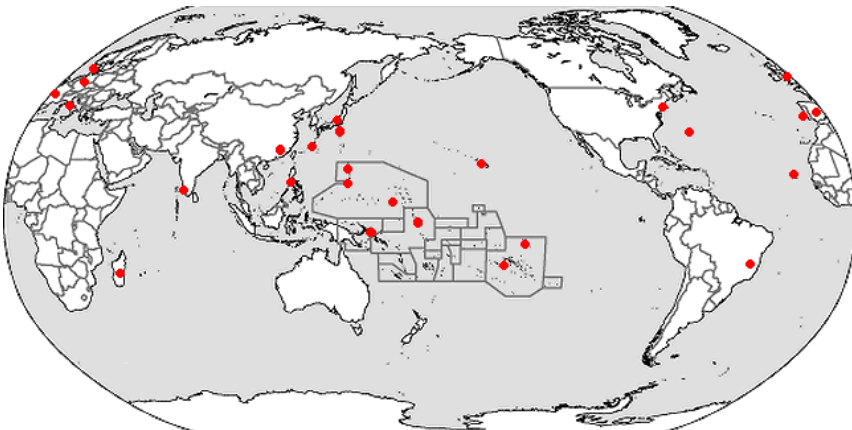


図3 小笠原に移民した人の出身地

Figure 2-1 Language Varieties found on the Bonin Islands, their approximate period of usage, and vitality (Long, ed. 2002)

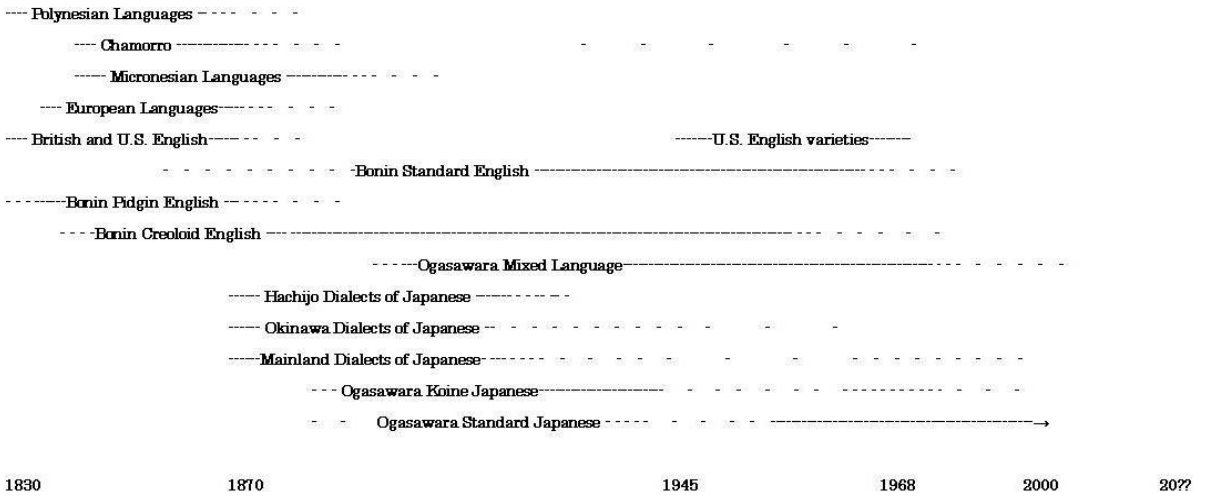


図4 小笠原の様々な言語変種とそれぞれの使用状況

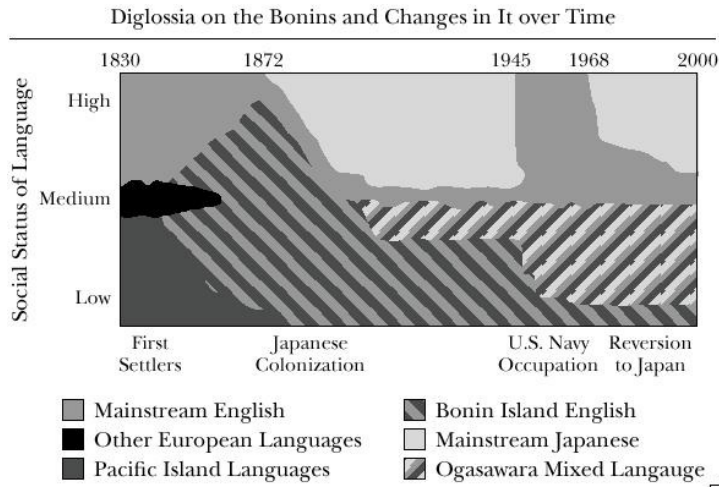


図5 小笠原のダイグロシア

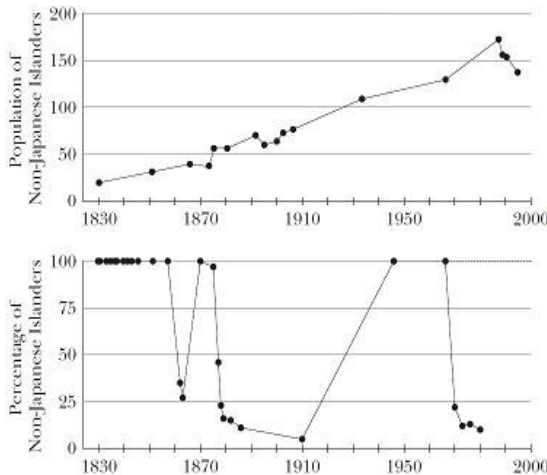


図6 人口の推移

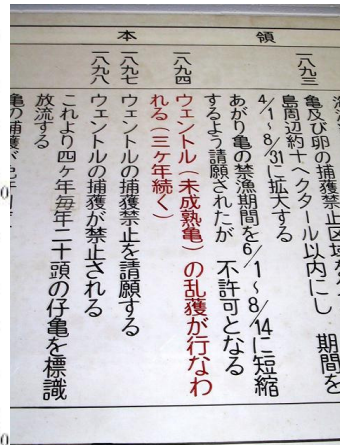


図7 ウェントル

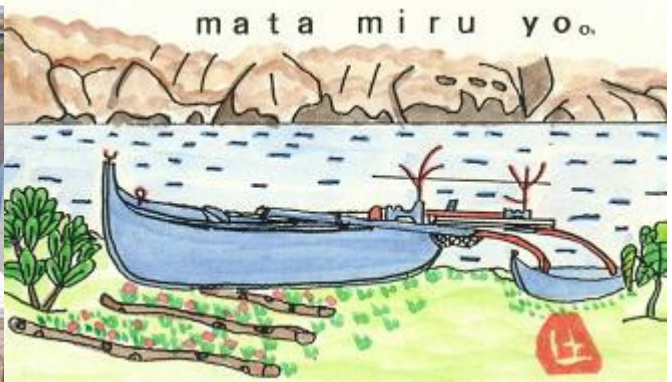
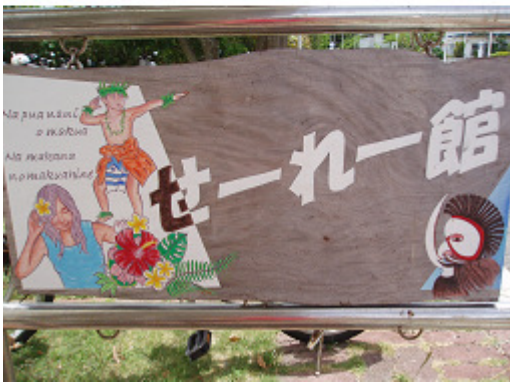


図8 小笠原の3つの「言語景観」

表2 意味領域のずれ

sense	English	mainstream Japanese	OML
I met an old friend for coffee.	meet	au	au
I saw my old teacher today.	see		miru
I saw a rare bird.			miru

表3 混合言語の会話例

I: そのとき *me sad* だったよ。遊べなくなっちゃったもの。みんな忙しいから。  
 F: んで *Guam* で *Typhoon Karen*.  
 I: Oh yeah, and then we got hit by *Typhoon Karen*.  
 F: いや、怖い！  
 I: That was nineteen sixty and we went to *Guam* sixty-two. The very first year. Was it? *We went in August* の終わり。  
 F: 電気も何もない。  
 I: November に。Ah, *typhoon Karen*. It was the worst typhoon *Guam* had had up until that point.  
 D: And you were there during the time?  
 F: Yeah. そう。  
 R: Couple of years ago, *Guam* got hit by a big one.  
 I: Yeah, big one. But *typhoon Karen* was the typhoon of all typhoon だった。そのときには。  
 R: Mother of typhoons.

F: You know what? Mrs. [名前], my home stay の bathroom で. She had this portable tape recorder  
 でこう、自分の mom にしゃべっていた。

D: だれが?

F: Homestay していたの、あの一ね。She had four boys だったよ、小さいがね。子供なんか back bedroom  
 にいる、全然気がつかない。一人なんか。French type、あの一louvers の type だったよ。Guam  
 の house は、私たちがいたの。それ French door だからさあ、大きいのあるんだよ。前とうし  
 ろなんか、そこ過っている。それでまた bathroom 一番安全。そこの homestay の奥さん。ああ、  
 tape recorder いっしょだけど wind の音も取って、自分の Mom にしゃべって。うちの Mama に  
 言っても、うちの Mama たち怖いだろう、typhoon。びっくりしちやって。絶対忘れない、説  
 明したこと。・・・First thing のあの人 の experience だろう。その、すごいもの。

I: Tape recorder はあの一、reel to reel のやつだろう?

F: だけど、小さやつだったよ。それで。

I: うん。あったよ、小さいの。You know what I wish?

F: あの人どこだった? Idaho? どっか、Iowa?そこらへんのあれだけど。うちの mama なんて怖いぞ、  
 typhoon,よくそういうところいく、娘がいるそういう人

I: You know what? They said there were people, American people walking around. そしたら decapitated  
 んなるって。They were — because あの一、なんだ? あの一、tin roof。なんつつたって?  
 tin roof のこと。

F: トタンの。

I: トタンが飛んだら首って切られるからって。・・・ Me の sponsor のあの一、何と言うの? その  
 French door, あの一glass door が割れて、water が up to the knee だった。そっしてさあ、初めて  
 来たのに、あんな tragedy あって。

F: あそう? water はあれだったな、わたしらの方は。

I: Water 入ってきた。knee まで入ってきた。そして、また今度 mess-hall に食べに行った。そしたら、  
 恥ずかしいだろう。Back then I was very shy. And you had to stand in line with all the 兵隊。

F: Two weeks も学校あれだったから。父島に帰してほしかった。それはしなかったけどね。電気も  
 なくて。

I: Yeah, no roof.電気もないし。And so you, yeah, that's why you had to go eat at the mess hall. そして、  
 cold. this is on the heel of that tsunami, ね。津波の思い出して、また。 So we've been veterans だ  
 じゃ。



図9 ビーデ祭

図10 ぎよさん

ロング、ダニエル 編 (2002) 『小笠原学ことはじめ』

ロング、ダニエル&稲葉慎 (2004) 『小笠原ハンドブック』

ロング、ダニエル&橋本直幸 (2005) 『小笠原ことばしゃべる辞典』

ロング、ダニエル(2010) 『小笠原における英語、日本語、混合言語—欧米系島民が使う3つの言語』

Long, Daniel (2007) English on the Bonin (Ogasawara) Islands. Duke University Press

Long, Daniel and Peter Trudgill. 2004. "The Last Yankee in the Pacific: Eastern New England Phonology in the Bonin Islands." *American Speech* 79.4: 356-367.